

個人完結型から社会開放型への 転換による新しい価値の創造

「文化比較・行動比較分科会」および
「乳幼児発達研究会」

2021年4月17日（土） 14:00～16:00

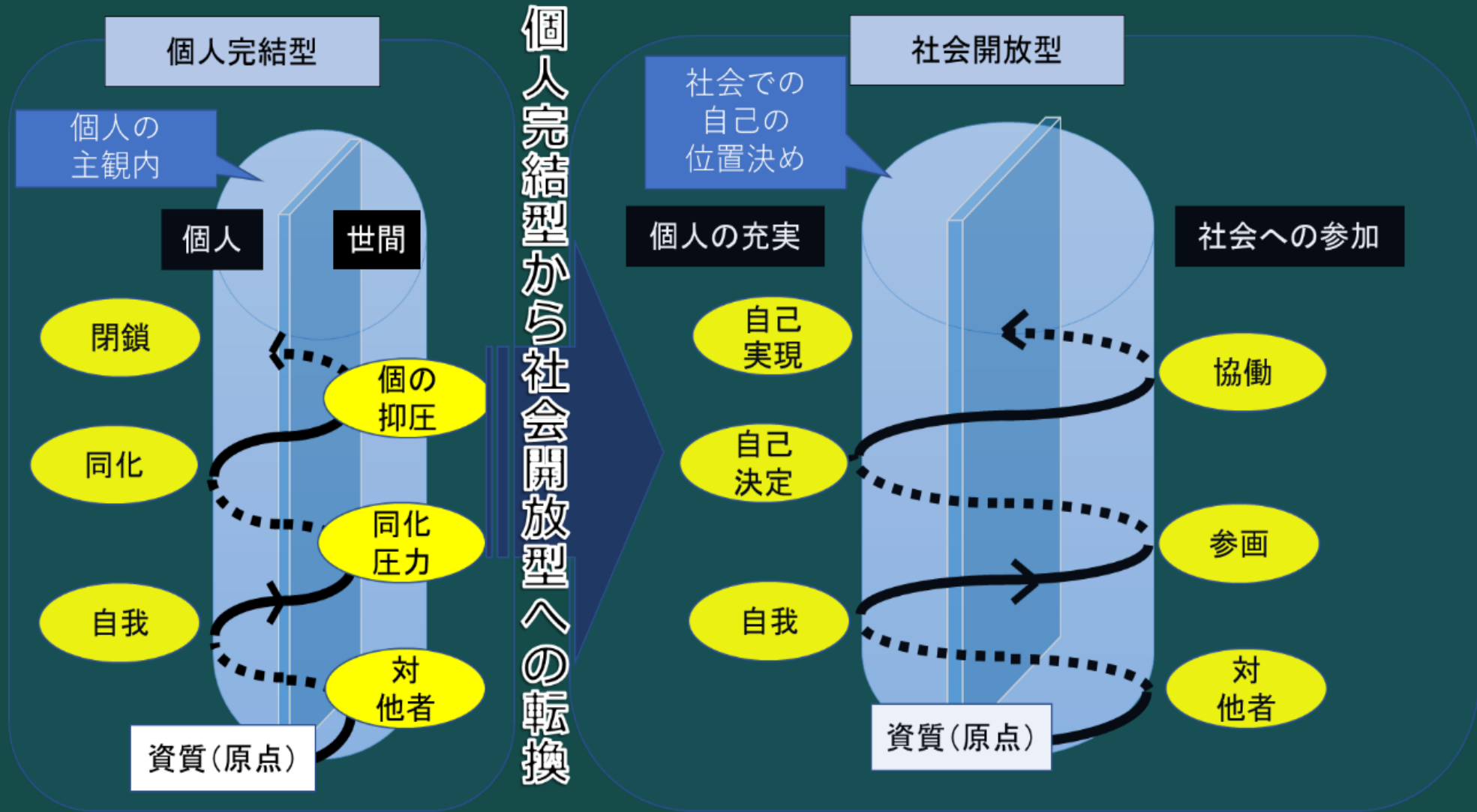
オンライン実施

若者文化研究会 西村美東士

社会に開かれた価値の創造

- フリースクールに通っていた若者に「君にとって社会とは」と尋ねたところ、「社会と言われても実感がわからない。世間ならわかる」と彼は言った。このような「せいぜい世間」という限定された視野では、社会においての自己の位置や存在価値を正しく認識することは難しいのではないか。そして、この問題は、フリースクールに通う若者だけでなく、社会に適応して『そつなく』生きているように見える若者にも共通する問題である。私は、社会に開かれた価値の創造こそが必要と考える。

社会的視野の拡大



わが国の青少年教育及び青少年問題：文献資料集 電子出版

<http://mito3.jp/ootuma.html>

青少年文献分析システム <http://mito3.jp/ydb/bunkenbunseki.htm>



書名： わが国の青少年教育及び青少年問題：文献資料集

著者： 西村美東士

ISBN: 978-4-907136-27-7

ファイル形式： PDF

PDF Free Download



※電子書籍を閲覧するには、ご自身の環境にあったアプリケーションをインストールする必要があります。

著者紹介

西村美東士



東京都青年の家（社会教育主事）、国立社会教育研修所、昭和音楽大学、徳島大学、聖徳大学、板橋区まなぼりと大原（中高生の居場所づくり）を経て、若者文化研究所代表。専門は、青年教育、社会教育、生涯学習、キャリア教育、ICT活用。個人化と社会化の全人的理解と一体的支援に関する研究のほか、子育て支援学会研究交流委員長として、子育て支援の体系化に取り組んでいる。その基本的視点は、「連鎖的参画による子育てのまちづくり」及び「個人完結型から社会開放型への子育て観の転換」の二つである。ほかに聖徳大学、白百合女子大学、神奈川大学の各研究員、豊島区生涯学習推進協議会会長、佐野市生涯学習アドバイザーなど。
ホームページ：<http://mito3.jp>

目次

本書の見方・使い方

第1部 青少年教育及び青少年問題文献資料編

1-1 「青少年問題」文献リスト

1-2 「青少年教育・対策」文献要旨

第2部 青少年教育及び青少年問題文献データ分析編

2-1 データ分析の方法

2-2 青少年の社会化に関するキーワード出現率の変遷

2-3 青少年問題文献における「社会性」の文脈

2-4 「青少年教育・対策」文献に見る社会化支援理念の変遷

2-5 1990年代における「個性尊重」支援理念の変遷

日本精神衛生学会 第36回大会 ポスター発表 P - 13

若者の居場所に求められる第3の支援

—青少年文献分析の結果から見えてきたこと—2020/11/7

- <http://mito3.jp/seisin36.html>

【結果】

分析の結果、居場所の支援理念として、①社会の一員として充実して生きていくために必要な能力を獲得する過程重視型、②個人として充実して生きていくために必要な能力を獲得する過程重視型の2タイプが指摘できた。①の社会化重視型に関わるものとしては、地域のふれあい(10件)、自立と参画(4件)、存在感・有用感(2件)、他者との交流、仲間づくり(各1件)の合計18件があった。これに対して、②の個人化重視型に関わるものは、身内・家族、心と身体、自己形成、あるがままの自分、「みんな主義」批判(各1件)の5件のみであった。

また、居場所の支援を主題とする文献については16件あったが、学校不適應への「対処療法」としての教育政策のほかは、このような「意図的操作的な教育意志によって教育過程に引き込んでいくこと」を否定する主張に代表されるように、「教育否定」に行きつき、結果として支援の目標も方法も見えなくなっていく。このような「先が見えない状況」は、2013年以降の図書においても、居場所は、「意図的操作的なまなざしに満ちた教育的空間から子どもたちの生の『逸脱』、あるいは『逃走』であった」という記述のように、むしろ強まっているといえる。

【考察】

「教育に対する忌避」については、「対処療法」を批判する積極的意義を持ちつつ、結局は社会化だけでなく、個人化としての能力獲得の支援のあり方も避けた議論に陥っている。これに対して、発表者は将来よりも「いま」を重視する「第3の支援」を対峙させたい。これは、カウンセリングの全人的理解につながるものであり、社会化と個人化の両者を同時に促進する支援として推奨すべきものとする。

社会化と個人化の一体的支援

回答1 「社会化と個人化の同時支援の具体的内容」について

本発表では、「社会化と個人化の両者を同時に促進する支援」と述べましたが、正しくは「社会化と個人化の一体的支援」と表記した方が良かったと考えています。

社会化支援の具体的な内容は、仲間づくり、キャリア教育など、社会のなかで充実して生きていくために必要な能力の獲得を支援するものです。個人化支援の具体的な内容は、読書指導、日記、テーマに対する論述などを通じて、自己内対話、自己客観視を促進し、個人として充実して生きていくために必要な能力の獲得を支援するものと考えます。

今日における若者支援の方法上の問題として、例えば、不登校の子どもが「学校に行けるようになる」という社会化の成果にばかり目を奪われて、個人化の過程を支援者が手がけない点にあると考えます。このように、社会化支援と個人化支援は、支援者が「連続的観察」による全人的理解によって、両者の一体的支援に努める必要があることを重視すべきと考えます。

第3の支援の具体的説明

<http://mito3.jp/seisin36.html>

回答2 「第3の支援の具体的説明」について

いくつかの場面を例に、「第3の支援」について具体的に説明いたします。

社会教育の場では、「仲間になじめない」、「団体活動で協調行動ができない」などの青少年に対して、支援者が直接的に集団に適応させようとする、本人は次からは来なくなる危険性があります。支援者は本人自らが動き出すのを待ち、そのときにこそ「肩を押してあげる」などの支援をする必要があると思います。

学校教育の場では、ルールに従わない生徒に対して、教師は「ルールに従わせる」という指導をすべき場面が生ずることがあります。しかし、教師がそばにいることで教師の存在が子供たちの励みとなり、言葉がけによって一步を踏み出せることがあります。これは同時に自己肯定感を育てる契機となります。

このような支援者の「存在感」は、第1の支援としての「社会化」や第2の支援としての「個人化」のための支援とは別の日常的な「子どもを信じて見守る態度」から生まれるものと考えます。つまり、「第3の支援」とは、第1や第2の支援のような「未来の充実」に向けた支援ではなく、「現在の充実」をめざす支援と考えます。

日本子育て学会研究プロジェクト推進委員会研究交流委員会企画 シンポジウム「コロナ危機における臨床相談援助および子育て体 系化への構想」2020年11月21日（オンライン開催）

- <http://mito3.jp/seika/4110.pdf>
- 体系化のカギになるもの
- 教育学の研究者でさえも、わが子の子育てに悩み、価値観を同じくする「ママ友」とだけつながろうとして、個人完結型の子育て観に閉塞していく傾向を見受ける。これだけ子育てが私物化している今日、社会開放型子育て観への転換は、簡単ではないのだろう。しかし、子育て支援学体系化を成功させるカギは、保護者が「わが子」だけでなく「子育てのまち」に目を向けること、支援者が「わが園」だけでなく「全市的視点」をもつこと、そして研究者は自分の研究領域だけでなく、人々の暮らしや仕事ぶりの総合的観点から、地域の子育ての課題を臨床的に分析することだと考える。それが、わが子を「私物」ではなく、社会の一員として「正しく見る」ことにもつながるのだと、私は考えている。

質疑・討議

- 子ども包括支援 子育てのまちづくりに関わる
- トランジション
- マイクロシステム間から、メゾシステムで学びなおす 往還
- エスノメソドロジー 現象を見る 帰納法的 クドバス
- 第3の支援
- 個人完結型、社会開放型
- 暗黙知 秋田喜代美

居場所の条件
http://mito3.jp/ibasyo_jyouken.jpeg

求める教育的価値 = 個人完結型から社会開放型価値観への転換

「承認されたい」という願望だけでは、現実社会では承認を獲得できない。承認とは相互承認にほかならない。指導員が中学生に寄り添って本人の存在を認めるだけでなく、本人にも他者の存在を認めさせる必要がある。そのためには居場所において、自分が認めてもらえる体験を与えるとともに、異質との交流を味わわせ、自己理解を促して、他者を承認する体験をさせたい。その体験こそが、持続可能な共生社会の担い手としての能力を育てることになるだろう。

相互承認を求めて・・・公共的居場所
 は、出会いのトレーニングのための限定的（教育の）時空間である。
 自立とは交わるけど混じらないこと 孤独でも生きられることが条件

相互理解
 共感・共有
 共存

SDGsや新しい公共の担い手とともに、異質間の相互承認の担い手を育成する必要がある。

今後の社会の多様な場で、居場所の担い手となる

今後の研究課題

原因説明 最初は一般論でアプローチ
 彼らの家庭論、学校論を聴き取る
 ヒアリングによる状況把握
 問わず語りで若者が語ってくれたこと

癒しとの異同
 学校にも家庭にも居場所がない若者が、
 自分自身を居場所ですらどう位置づけるか

心のよりどころになる いると落ち着く

必要とされている
 自分の仕事がある 自分が力になっている

知っている人がいる
 知らない人がいない
 閉鎖するのかわ
 空間的占有も固定する 誰かが待っている

自然発生的居場所は「ここ止まり」。
 普通の居場所の限界はここにある。

公共的居場所では、その性格上閉鎖させることはできない。
 部屋のドアを開け切って施錠し、自分たちのグループだけで閉じこもろうとする事象がときどき起こるが、指導員が強制的にドアを開けさせている（かわいそうだが）。

他者を認める

中学生の居場所の条件

学校や家庭が本来やってほしいのだが、満たされていない。

認めてくれる

- 意見を言える
- 意見を受け止めてくれる
- 否定されない
- 注意してくれる
- 叱るはいいけど怒るはダメ

助けてくれる

- 警察から引き取ってくれる

参加できる

- 認められているから行こうとする

相談できる

- 学習相談
- 生きる相談

自らを育む

- 勉強できる子には学業を教える
- そうでなくても、社会性を身につけさせる
- なるようにしかならないことを指導員は知っておく

好きなようにできる

- マイルーム
- 図書室・保健室
- 余計なことを考えなくて良い

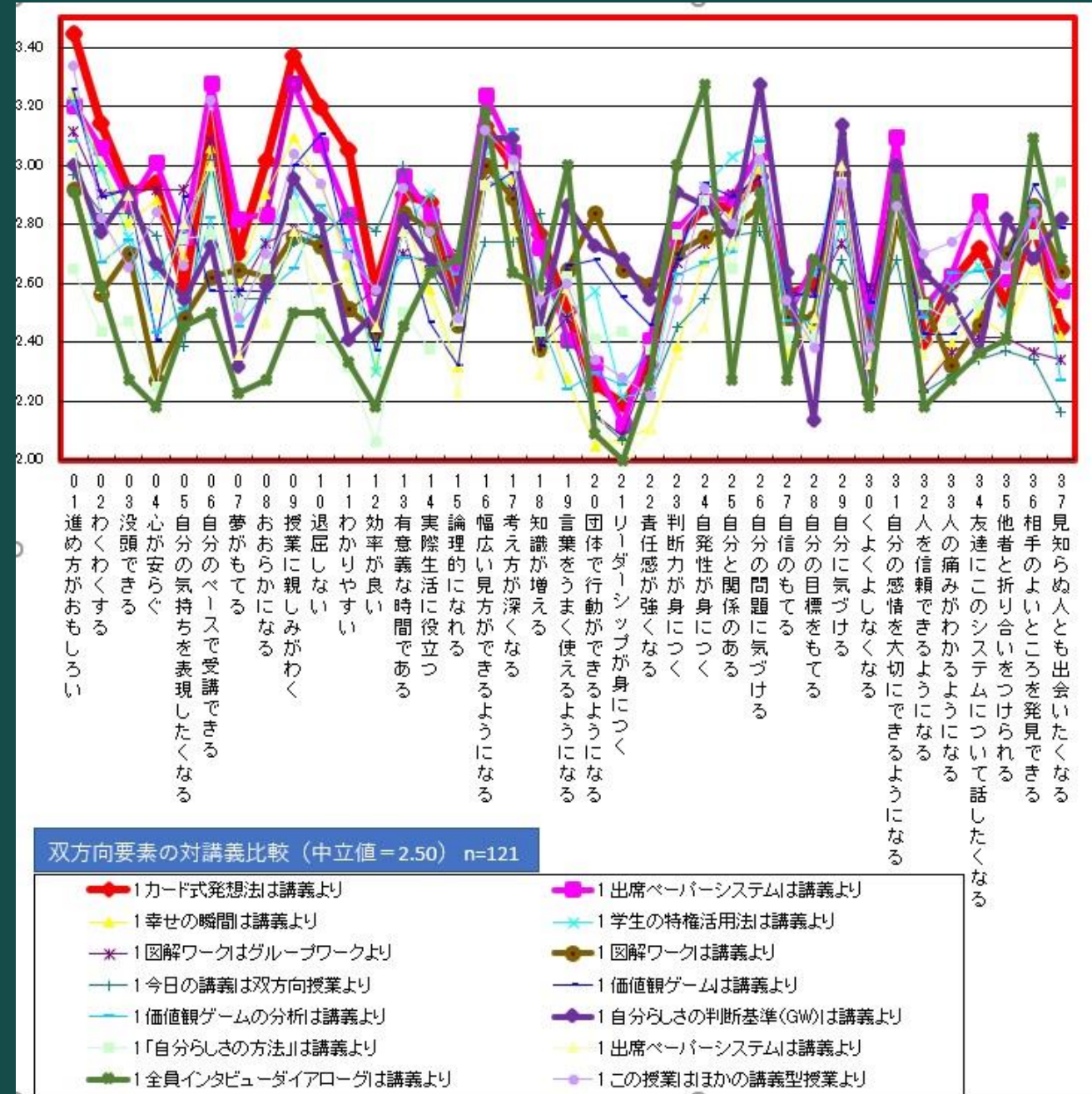
生活ができる

- トイレがある
- 水道がある
- 飲食ができる

「知らない人がいない」という「条件」をどう考えるか。

見知らぬ他者との出会い

<http://mito3.jp/syakaikatokojinnka>



見知らぬ他者との出会い方 第一印象ゲーム

自己理解

他者理解

共感

信頼

- | | | | | | | |
|-----|---------------------------------------------------|----|--|--|--|--|
| 名前 | | | | | | |
| 問 1 | 好きな季節 1, 春 2, 夏 3, 秋 4, 冬 | 印象 | | | | |
| | | 正解 | | | | |
| | | 採点 | | | | |
| 問 2 | 好きな食べ物 1, 和食 2, 洋食 3, 中華 4, その他 | 印象 | | | | |
| | | 正解 | | | | |
| | | 採点 | | | | |
| 問 3 | やってみたい職業 1, タレント 2, 作家 3, 実業家 4, 総理大臣 | 印象 | | | | |
| | | 正解 | | | | |
| | | 採点 | | | | |
| 問 4 | 行きたい外国 (自由記述) | 印象 | | | | |
| | | 正解 | | | | |
| | | 採点 | | | | |
| 問 5 | 好きな色 (自由記述) | 印象 | | | | |
| | | 正解 | | | | |
| | | 採点 | | | | |
| | | 得点 | | | | |

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
|--------|---|---|---|---|---|---|---|
| 名前 | | | | | | | |
| 問 1 印象 | | | | | | | |
| 問 1 正解 | | | | | | | |
| 問 1 採点 | | | | | | | |
| 問 2 印象 | | | | | | | |
| 問 2 正解 | | | | | | | |
| 問 2 採点 | | | | | | | |
| 問 3 印象 | | | | | | | |
| 問 3 正解 | | | | | | | |
| 問 3 採点 | | | | | | | |
| 問 4 印象 | | | | | | | |
| 問 4 正解 | | | | | | | |
| 問 4 採点 | | | | | | | |
| 問 5 印象 | | | | | | | |
| 問 5 正解 | | | | | | | |
| 問 5 採点 | | | | | | | |
| 問 5 得点 | | | | | | | |

参考文献・資料

若者との協働による価値創造の新しい方向 社会教育誌2017年10月号

- <http://mito3.jp/201710syakyo/pdf.pdf>

「社会教育士としての青少年教育のあり方」WEB版(作成中) 社会教育誌2021年4月号

- <http://mito3.jp/202104syakyo.html>

- 第一印象ゲーム

- <http://mito3.jp/daiiti.pdf>

- 価値観ゲーム

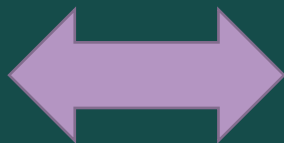
- <http://mito3.jp/katikan.pdf>

- 自己相対視トレーニング

- <http://mito3.jp/soutaisi.pdf>

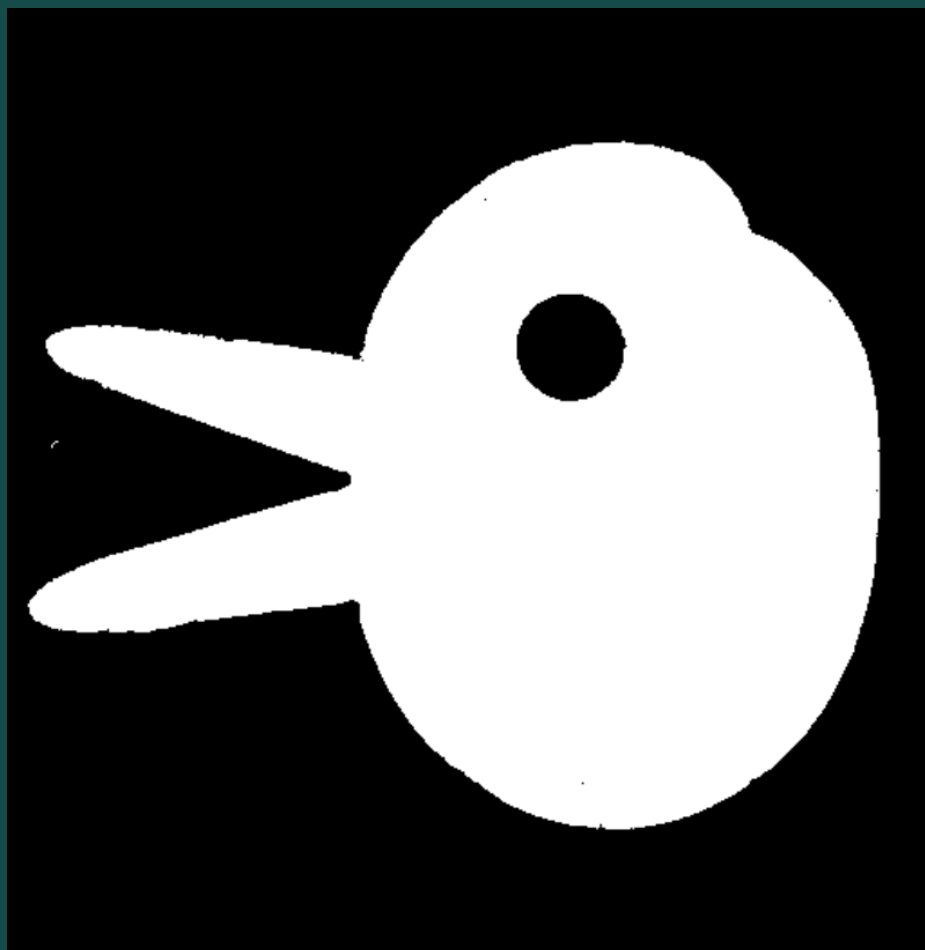
なぜ学校ではできないのか

- 多様性が認められない



板橋区生涯学習センター

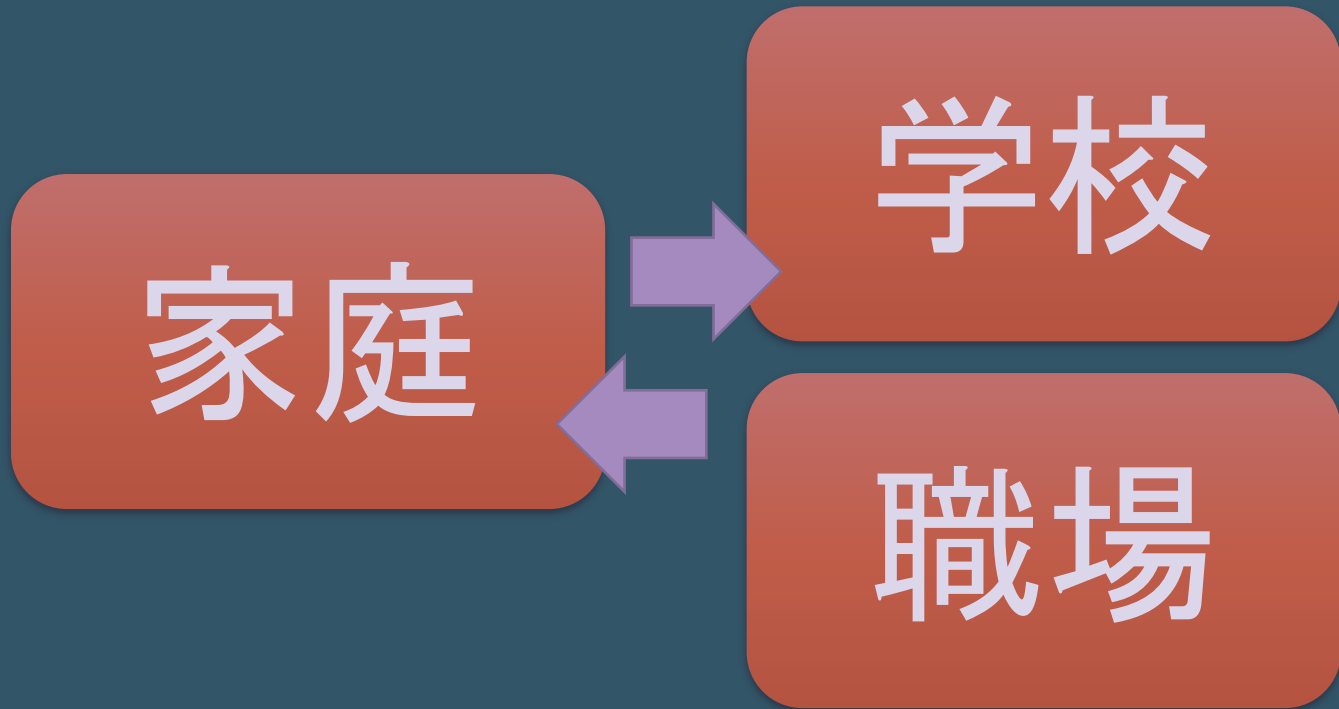
右の絵を見てください。
なんの絵だとおもいますか。
あひる・・・、
それとも・・・？



個人完結型から社会開放型への 転換による新しい価値の創造

個人完結型

「適応系」としてのヤンキーを考える
<http://mito3.jp/syohyou/html/3230.html>



社会開放型による
世界の拡大

参画と協働



信頼
共感と



社会